令和５年１月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第701号

林業福島

No. 701

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会 長　小檜山善継

1
2023

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■年　輪　を　切　る

ふくしまプライドで逆境を乗り越え、ふくしまを『希望の地』へ

福島県知事
内　堀　雅　雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

私は、去る十月の知事選挙におきまして、県民の皆様の御支持を頂き、引き続き、県政を担わせていただくこととなりました。皆様からの御期待をしっかりと胸に刻み、福島の未来を切り拓くため、全力で挑戦を続けてまいります。

福島県は、未曾有の複合災害からの復興はもとより、急激な人口減少、度重なる自然災害からの復旧、新型コロナウイルスの感染拡大防止、さらには原油価格・物価高騰への対応など、幾多の困難な課題を抱えております。

そうした中で、挑戦を絶えず「シンカ（進化・深化・新化）」させながら、様々な逆境を乗り越えることにより、「ふくしまプライド。」を更に光り輝かせていくことが重要と考えております。

まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、復興の状況に応じた被災者の生活再建や事業・生業の再生、帰還環境の整備などに取り組むとともに、廃炉と汚染水・処理水対策や、風評の払拭と風化の防止、移住・定住の促進など、様々な課題に全庁一丸となって取り組んでまいります。

次に、人口減少対策につきましては、結婚から子育てまでの切れ目のない支援や、「福島ならでは」の教育を推進していくほか、食・運動・社会参加を柱とする健康づくりに力を入れ、全国に誇れる健康長寿県を目指してまいります。

また、農林水産業や商工業、観光業など、既存産業の振興はもとより、新産業の創出・集積等を通じて、若者の県内定着・還流や魅力ある雇用の場づくりなどに取り組んでまいります。

さらに、新型感染症につきましては、引き続き、県民の皆様に対し感染防止対策の徹底をお願いするとともに、国や市町村、関係団体等と緊密に連携しながら、感染拡大の防止と確実な医療の提供に取り組んでまいります。加えて、物価高騰等に対しては、需要喚起策や金融支援などにより、生活の安定と経済の維持・再生を図ってまいります。

これらの取組を含め、県の総合計画に掲げた目標を一つ一つ着実に実現させながら、福島の定義を「被災の地」から「希望の地」、さらには「復興の地」へと変えるべく、全力で福島の未来を切り拓いてまいりますので、今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

《もくじ》

とびら
ふくしまプライドで逆境を乗り越え、ふくしまを『希望の地』へ
福島県知事　内　堀　雅　雄……1
新春特集 700の歩みの先へ……2～4
森林・林業の復興に向けて国へ緊急要望…5
女性に向けたイベント「木の仕事を巡るバス旅～木造音楽ホール見学と「やまが炭」のお話、炭焼き窯と果樹木工見学～」を開催しました…6
新嘗祭献穀用の会津桐箱……7
「2022第45回全国育樹祭」が大分県で開催されました…8
第７回福島県きのこ料理コンクールを開催…9
林業アカデミーふくしま研修日誌⑧……10
「新たな森林づくり」⑥……11
林経協だより……12
森林管理署メモ……13
公社だより……14
木の文化を育む㊻……15
木材市況・ふくしま東西南北……16
はなしのひろば・お知らせコーナー……17

新春特集
七〇〇の歩みの先へ

「林業福島」編集発行人　飯沼隆宏

「林業福島」は七〇〇回の発行を積み重ね令和五年初春に七〇一号を数えるに至りました。

これまで永きにわたりご愛読いただいている読者の皆様、玉稿をお寄せいただいた数多の皆様、さらには歴代の編集会議を構成された皆様のお陰に他なりません。誠にありがとうございます。お一人お一人に感謝申し上げ、この佳日をご一緒にお祝いしたく、ペンを握った次第です。

「林業福島」創刊号（昭和38年８月）掲載写真、林業改良指導員の現場指導の様子。

人と森林とのつながりについて、私は、「場の特性、歴史的変遷、さらには時々に移ろう社会情勢により、当事者の選択と行動は様々でありそれぞれに結果するが、源となる原点は唯一無二で変わることが無い。」というようなものではないかと思っています。

この記念すべき「林業福島」七〇一号の紙上において、人と森林とのつながりの原点に近づくことを試み、さらには今後の森林づくりについて考えてみたいと思います。その端緒として、平成二〇年一月二〇日、福島県主催により開催された「ふくしま森林文化フォーラム」での赤坂憲雄先生（当時：福島県立博物館長）の発言概要を以下に私なりにまとめてみます。

「森林」を、近年は「里山」と「奥山」に分けます。これはとても重要なことだと思います。

源流の治山ダムに守られる森林、その森林は生活圏を守る。

一時、「木を伐る」ことが「悪」で「木を植える」ことが「善」であると振り分けられるようなヒステリックな反応がしばしば見受けられました。木を伐る人は悪い人で、木を植える人は正義の味方みたいなイメージが作られていたんです。ところが我々は木を伐らずには生きていけません。家だってそうですし、我々の暮らしのかなりの部分が木によって作られています。そういうことを考えれば、「木を伐る」「木を植える」といったことを醒めた目で見るべきだなとずっと思ってきました。

去年、ドイツのシュバルツバルトの黒い森を見てきました。「ドイツの森の中には野生は存在しません。」という説明を聞いたとき衝撃を受けました。すでに野生をほとんど失ってしまった人為的な森林に取り囲まれている中で、ドイツの人々は人と森林との関係を語っています。それをモデルに日本の森林に向かい合う

方法を組み立てられるでしょうか。日本の森林、特に東北には、「奥山」に豊かな野生を抱え込んでいます。ここで人と森林との関係をどのように作っていったら良いのか、やっぱりドイツをモデルにすることはできません。我々自身の風土や文化の中に森林との関係を見つめ直すことによってしか、新しいモラルや森林と共に生きる術といったものが生まれてこないのではないでしょうか。

国内に目を転じると、東北を歩いている民俗学者の我々は、まわり一面が開発されて残った鎮守の森の感覚がありません。東北の山村では、氏神様、鎮守の神様は山の神だからです。鎮守の森という形で島のように残っているのではなくて、山里から山への入り口のマツリギに山の神が祀られていて、さらに、その背後の「里山」と「奥山」の境にもまた山の神の神社が祀られています。そして、その「奥山」は原生的な森、野生動物を抱え込んでいます。これが我々の森林との関係であると考えたときに、おのずと我々が向かうべき方向性が見えてきているのではないかと思います。

人と森林との付き合いが創ってきた里山と奥山の境、山への信仰。

明らかなのは、木を伐って更新していく里山的な森林と木を伐らずに守るべき奥山的な森林という、多様な森林があるのだということです。ですから我々は森林の多様性に即した形で森林との付き合い方を多様に組み立てていかなければならないのです。そこには東北に積み上げられてきた一万年の縄文以来の文化というものが、そしてその中には、森林と付き合う知恵や技や世界観、心や精神のあり方、信仰といったものがあります。それを我々はひとつひとつ掘り起こして、森林と付き合う新しいスタイル、モラルや思想といったものを創っていかなくてはいけないのです。

森林とは文化である。文化としての森林というものに我々は向かい合っています。だからこそ我々は森林を文化として守り育て次代へと受け継いでいく責務があるんだと感じています。

以上が概要です。「東北の森林は、それ自体が東北に生きてきた人々が縄文以来一万年の時を費やして創ってきた文化である。」これが赤坂先生がお話しになったことの根底にある考えだと思います。

先人の多様な営みがあったからこそ多様な森林が今に残っています。今を生きる私たちもまた、悠久の時の流れの中で将来を創り出す森林づくりを一歩一歩着実に進めていると

東日本大震災以降、整備が進められている海岸防災林は文化として後世に残る。

言って過言ではありません。

特に東日本大震災と原発事故後の十数年は、海岸防災林の復旧拡充と放射性物質拡散に対処する森林整備にその主力を注いできました。少し歴史を遡れば、海岸林を造成し生活圏を拡大した相馬藩・平藩、磐梯山噴火後の荒野に植林した遠藤現夢翁、半田銀山の地すべり被災地を復旧した福島県最初の治山事業などを思い起こしますが、私たちは、これらに連なる大事業を文化として後世に残すことになるのだと思います。

さて、この先です。

いつまでも放射性物質への対処にかかりっきりになっているわけにはいきません。それはそれとしてしっかり対応しつつ、さらに今日的な課題を見つめ将来を展望して進まなければいけません。それは、私たち業界が、県・市町村等の行政と現場で連携し、研究機関の力も借り、「一つの正解が用意されているわけではない新たな森林づくり」を始めることに他なりません。

一例をお話しします。昨年から福島県林業会議を構成する林業関係団体が集い「皆伐再造林」を如何に進めていくか、協議を開始し実証的な取組を進めようとしています。現在の森林資源の構成状況、カーボンニュートラルの実現という国際的大命題、これらに対峙すれば「皆伐再造林」推進の必要性は論を待ちません。「皆伐再造林」といった途端に「多様」とは真逆のものをイメージされる方も多いと思いますが、そうではないと考えています。対象区域をどう捉えるか、そこに何をどれだけ植えるか、そのことにより多様な森林が創られると思います。

大切なのは、如何に実行するかです。森林所有者だけの課題にせず、林業・木材産業関係者が力を合わせ、さらには県民参画による森林づくりを進めていくことが重要であり、その骨子となるのは、「地域の潜在力に合う適正規模の林業・木材産業の構築と持続」であると思います。言い換えれば、そこに住む人々がキャスティングボートを握り、地域のリアリズムの中で捻り出した方向に行動していくことこそが、将来につながる道なのではないでしょうか。「そこに住む人々」と書きましたが、地域の新たな力になろうとする若い力が増えてきていると強く感じます。さまざまな人が、それぞれの色を発揮し、その融合により豊かな森林に抱かれた地域が創られ持続していく。言うは易く行うは難しではありますが、これは、とりもなおさずＳＤＧｓの根本精神と一致するものと考えています。

「林業福島」は、これからも県内各地域で自分事として奮闘する人々に熱いスポットを当て、その活動を全力で応援していきます。

拙文にお付き合いいただき、ありがとうございました。これからも「林業福島」をよろしくお願いいたします。

参考文献　平成二〇年一月福島県発行「ふくしま森林文化フォーラム講演集～ふくしまの森林文化とは～」

子どもたちが引き継いでくれる豊かな森林・林業を創ろう。

森林・林業の復興に向けて国へ緊急要望

福島県林業会議

県内の森林・林業関係十団体で構成する福島県林業会議は、令和四年十二月八日、東日本大震災からの森林・林業の再生に向け、昨年度からスタートした「第二期復興・創生期間」においても必要な予算を確保するよう、復興庁と林野庁に要望しました。

同会議はこれまでも復興・創生に係る新たな課題について継続して取り組めるよう要望活動を展開しており、今回、新年度の予算編成に向けて、ふくしま森林再生事業、広葉樹林再生事業の実施と予算の確保、県産材の放射性物質対策の継続と樹皮の処理等への支援、海岸防災林造成事業の予算確保や維持管理のための財政支援などを要請しました。

秋葉賢也復興大臣、織田央林野庁長官ともに、要請を踏まえ、第二期復興・創生期間においても必要な予算を確保し、計画的に取り組む旨発言いただきました。

林野庁にて、右から二人目が織田央林野庁長官

復興庁にて、右から小檜山善継県森林・林業・緑化協会会長、秋葉賢也復興大臣、田子英司県森林組合連合会長、鈴木裕一県木材協同組合連合会長

ふくしまの森林・林業の復興に向けた緊急要望項目

1　第２期復興・創生期間における予算の確保
　復興の進捗により生じる新たな課題への対応など必要な予算の確保と財源措置の継続

2　放射性物質対策と森林整備等の推進
⑴「ふくしま森林再生事業」を始めとした各種復興施策に係る予算の確保
⑵　きのこ原木の安定供給に向けた「広葉樹林再生事業」の実施と予算の確保
⑶　森林内における放射性物質の実態把握や林業再生に向けた実証等の継続

3　林業・木材産業の再生に向けた支援
⑴　丸太、製材品の放射性物質濃度調査、木材の安全確保に要する検査、樹皮の処理等、放射性対策の継続支援
⑵　きのこ原木、おが粉など生産資材の調達を支援する事業の継続
⑶　山菜・野生きのこのモニタリングや出荷制限解除に向けた取組の継続及び非破壊検査による出荷再開の取組の拡充

4　海岸防災林造成事業に係る予算の確保
　海岸防災林造成事業完了までの事業費の確保及び成林するまでの維持管理に係る財政支援

●女性に向けたイベント●

「木の仕事を巡るバス旅～木造音楽ホール見学と「やまが炭」のお話、炭焼き窯と果樹木工見学～」を開催しました

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島県林業労働力確保支援センター

令和四年十一月五日(土)に、女性に向けたイベント「木の仕事を巡るバス旅～木造音楽ホール見学と「やまが炭」のお話、炭焼き窯と果樹木工見学～」を開催しました。これは、当協会が実施する森林・林業担い手対策事業の一つとして、森林や林業に興味関心のある女性に向けてイベント等を開催するもので、おおよそ年二回ほどのペースで行っております。

今回は、林業女子会@福島からの情報提供を元に、初めて山形県まで足を伸ばし、地元産の木を生かした取り組み（木の仕事）を見学するバス旅を行いました。

南陽市文化会館の見学

小ホール内、木の香りが漂います

はじめに向かった南陽市文化会館（シェルターなんようホール）は、南陽産のスギ材を活用した大型木造耐火施設で、「最大の木造コンサートホール（Largest wooden concert hall）」としてギネス認定された大ホール等を備える文化会館です。職員の方にご案内いただきながら、施設の構造や工程、木造の効果等についてお話を伺い、木材の調達を行った米沢地方森林組合の川合代表理事から、当時の状況や苦労したこと等についてお話を伺いました。

館内は、木造ならではの明るく柔らかな雰囲気が心地よく、ホール内は、木の香りが漂う癒しの効果が高い空間となっており、様々なアーティストがコンサートに訪れ、地元市民をはじめ多くの音楽ファンに親しまれている様子が伝わりました。

続いて、南陽市の吉野森林交流センターにて、株式会社長沢燃料商事（米沢市）の長澤社長から「やまが炭」についてのお話を伺いました。「やまが炭」は、同社が企画・開発・販売するブランド炭で、地元のナラ材を使い、扱い易く火持ちのいい質の良さと山形らしいネーミング、山形の自然を表現した優しいデザインが特徴的です。炭の生産を取り巻く状況やブランド化に向けた思い、商品化の過程、地域の木の文化を継承することへの思い等についてお話いただいた後、炭窯へ移動し、炭の製造を行っている米沢地方森林組合の四柳課長と、炭窯の管理を行っている中條班長から、作業の工程等について楽しく分かりやすくお話いただきました。

長澤社長による「やまが炭」のお話

炭窯の見学、窯の内部も見せていただきました

続いて、上山市へ移動し、果樹木工「くだものうつわ」を見学しました。果樹栽培がさかんな山形の特色を生かして、果樹の廃材を利用し、天然木の自然な色合いを組み合わせたお皿や椅子、カトラリーやアクセサリーを製作している工房で、鈴木代表から、製作過程について実演を交えてご説明いただきました。

参加された方からは、地域の木の文化の継承に向けた熱い思いと、技術の高さに感嘆する声とともに、自分たちの身近な場所にも、もっと木を取り入れた施設等があればとの声が多く上がっていました。

都合により、ギネス認定された大ホール内の見学が叶いませんでしたが、ぜひ、コンサートに足を運び、木造の特性を生かした空間と音の響きを体感していただけたら幸いです。

くだものうつわの鈴木代表による実演

樹種ごとに異なる優しい色合いを生かした木皿

新嘗祭献穀用の会津桐箱

三島町

毎年十一月に皇居で行われる新嘗祭で献上する献穀米の栽培農家に、今年三島町で初めて西方地区の小松正信さんが選ばれました。

新嘗祭は毎年十一月二三日に行われる祭儀であり、天皇陛下が神嘉殿において新穀を皇祖はじめ神々にお供えになり、神恩を感謝された後に陛下自らもお召し上がりになる祭典です。宮中恒例祭典の中で最も重要なものであり、天皇陛下自らもご栽培になった新穀をお供えになります。

今回、福島県からは二名の献穀者が選ばれたことから、献穀用の箱について会津桐タンス株式会社が福島県から委託され、会津桐で製作して納入しました。「桐の里」を称する三島町は、最高品質の箪笥材として知られる「会津桐」の産地であります。会津桐は国内で生産されている桐の中でも最上級品と謳われており、同町の雪深い気候と只見川が運ぶ豊かな土壌に育まれた桐は、他の桐材に比べて木目が太くはっきりと浮き出ているため、緻密な木目と銀白色の色味の美しさに特徴があります。会津桐タンス株式会社では、その会津桐を使用した総桐箪笥や米びつ、茶筒や桐小物等を製作・販売しております。

献穀者である小松正信さんが丹精込めて栽培した「天のつぶ」は五月三〇日に御田植され、九月二六日に献穀米分を手刈りで収穫され、天日干しにより精米されました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響から献穀米は輸送で皇居に送られ、残念ながら新嘗祭献穀献納式は中止となりました。

小松夫妻と矢澤三島町長は十二月二六日に福島県庁において、内堀知事、小柴農林水産部長を表敬訪問して、献穀米の作柄などを報告し、収穫された新米を贈呈しました。そして、内堀知事から小松夫妻に宮内庁から伝達書の交付と会津桐箱が贈呈されました。

献穀米桐箱

小松さんの献穀記念米

県知事表敬訪問

田植えの様子

小松夫妻

「二〇二三第四五回全国育樹祭」が大分県で開催されました

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

第四五回全国育樹祭が、令和四年十一月十二日、十三日に、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が三年ぶりに現地でご臨席され、「豊かなおおいた　森林（もり）を育み木と暮らし」をテーマに、第一回全国育樹祭が開催された大分県で開催されました。

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、昭和五二（一九九七）年から、全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を、皇族殿下がお手入れされたり、参加者が育樹活動を行うもので、毎年、過去に全国植樹祭を開催した都道府県において開催されています。

秋篠宮皇嗣殿下のおことば

式典会場（開始前）

【お手入れ行事（十二日）】

豊後大野市「大分県民の森　平成森林公園」で開催

秋篠宮皇嗣同妃両殿下が平成十二（二〇〇〇）年の全国植樹祭で上皇ご夫妻が植えられたアカガシの枝打ちなどの手入れを行われました。その後、介添えの緑の少年団員などにお言葉をかけられ交流されました。

【式典行事（十三日）】

大分市「昭和電工武道スポーツセンター」で開催

「プロローグ」県内の魅力映像や郷土芸能による歓迎演技に続き、前日に行われた「お手入れ行事」が映像で紹介されました。

「式典」秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御入場の後、［開会のことば］、［三旗入場・緑の少年団入場］、［三旗掲揚・国歌独唱］、［主催者あいさつ］、［歓迎のことば］。

［秋篠宮皇嗣殿下のおことば］では、森林は私たちの暮らしに必要なものや豊かさをもたらすとともに、地球環境を守る上で重要な役割を担っていることを話された後、**「かけがえのない豊かな森林を維持することは、人類はもとより地球上に暮らす数多（あまた）の生き物たちにとって大変重要なことと考えます。また現在、我が国の森林の約四割に相当する人工林の半数が、本格的な利活用の時期を迎えています。この豊富な資源を有効に活用するとともに、循環利用に向けて計画的に森林を再造成し、健全な姿で次の世代へと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な務めであると申せましょう。その意味から、本日表彰を受けられる方々をはじめ、日頃からそれぞれの地域において、国土緑化に力を尽されている全国の皆さんに敬意を表しますとともに、このような活動が今後一層発展していくことを期待いたしております。」、「本大会を一つの契機として、豊かな森林（もり）を育む心がさらに広がり、森林（もり）からの恩恵である木材を暮らしの中に活かす木の文化が、ここ大分の地から全国へと展開していくことを祈念し私の挨拶とします。」**と述べられました。

［表彰］緑化功労者等への表彰が行われ、本県からは「ふれあいの森林づくり」部門で**南会津町横町区**が国土緑化推進機構理事長賞を受賞しました。

［緑の贈呈］大分県の緑の少年団から全国の緑の少年団へ苗木を贈呈

［緑の少年団活動発表］大分県中津市立三郷小学校みどりの少年団

［メインテーマアトラクション］大分県出身の芸能人が県内の森づくりや林業の今を取材した映像を交えながら、緑の少年団とともに森林を守り育てることの大切さ、森林と人との関わりについて考えるストーリーを歌やダンスを交えて披露されました。

［大会宣言］に続き、茨城県知事から「次期開催県のあいさつ」、大分市長による「閉会のことば」の後、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が御退場され、式典が終了しました。

「エピローグ」杉ヴァイオリンの演奏、未来メッセージ映像、出演者全員による合唱で全式典行事が終了しました。

今回の全国育樹祭は、コロナ感染防止対策がなされる中、約四、〇〇〇名が出席しての開催となり、式典会場の屋内には関係コンクールの作品各種展示、屋外の「おもてなし広場」には森林・林業・木材産業、伝統竹工芸の実演、観光・物産、足湯など、併せて十四ブースの出展があり、コロナ禍以前に戻りつつあると感じました。（本県からは林業関係者十一名が出席）

ウェルカムオブジェの１つ

おもてなし広場

第七回福島県きのこ料理コンクールを開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島県きのこ振興協議会

令和四年十一月二三日(水・祝)、郡山市安積総合学習センターにおいて「第七回福島県きのこ料理コンクール本審査会」を開催しました。

同コンクールは、食用きのこについての正しい知識とその利活用の普及啓発により、きのこ産業の振興を図ることを目的としており、福島県、福島県森林組合連合会、全国農業協同組合連合会福島県本部の後援をいただき開催しました。

応募総数は一九四点（うち高校生一〇四点、大学生八六点、一般四点）となり、最優秀賞である県知事賞は規定により一点の選出となりました。

深谷ヴィヴィさん　県知事賞受賞作品
「サスティナブル福島！干し椎茸といかにんじんの大根餅」

調理審査

当協会が委嘱した五名の審査員により、十月三一日に書類による一次審査を、十一月二三日には調理の実技を伴う本審査を行い、七名の方の入賞が決定しました。

全参加者が規定時間となる一時間以内に作品を仕上げることが出来ました。審査員からは、時間内の調理方法や器具の使い方を高く評価されたほか、仕上がった作品についてもきのこの味や食感の良さ、そしてきのこの香りを上手く引き出せるよう工夫された点、彩りや盛り付けの良さなどが高く評価されていました。

また、地元産のきのこを丹念に調べ使用するなど材料選びにおいても工夫が凝らされていました。参加者の皆様の日々のきのこ料理への研鑽の賜物と察しますとともにご指導された先生方のご尽力に感謝申し上げます。

入賞者のうち県知事賞を受賞した深谷ヴィヴィさんは、令和五年三月七日に東京都で開催される第三五回きのこ料理コンクール全国大会へ福島県代表として推薦されることとなります。

記念撮影

受賞者一覧

	作　品　名	氏　名	職　業
県知事賞	サスティナブル福島！ 干し椎茸といかにんじんの大根餅	深谷　ヴィヴィ	福島県立あさか開成高等学校
優秀賞	ふくしま愛がギュッと詰まったきのこ焼きおにぎり ペペロンチーノスープ	関　彩音	郡山女子大学短期大学部
	～桜えび香る　なめこ具沢山茶碗蒸し～	佐藤　瑠依	郡山女子大学附属高等学校
特別賞	きのこ　しみいる森のステーキ	室井　つな子	一般
奨励賞	～干し椎茸の香る～和風・ライスバーガー	河野　歩乃佳	郡山女子大学
	もりもりきのこの森のピザ	中井　萌乃佳	郡山女子大学短期大学部
	椎茸盛りだくさんのヘルシー豆腐ハンバーグ	塩田　さくら子	郡山女子大学短期大学部

林業アカデミーふくしま研修日誌⑧

福島県林業研究センター

○十一月の研修内容

就業前長期研修八ヶ月目となる十一月は、林業に必要な様々な知識を取り入れ、技術を磨きました。

「育苗」では苗木生産現場へ赴いて苗木生産の流れや苗木の取り扱いについて学び、「現場管理の基礎」では森林施業を提案し施業するまでにどのような立場の人がどのようなことをするか、そのために必要な情報をどう集めるかなどを学びました。「薪・特殊伐採」では、薪づくり及び特殊伐採にあたり必要なロープワーク・道具についての説明を聞きました。

また、「林業架線作業主任者講習（実技）」を塙町実習フィールド等で行いました。九月の座学で苦労しながら学んだ知識を、現場で作業しながら実践することで、より具体的な理解につながったようです。研修生たちは、通称一〇〇時間講習と呼ばれるこの長期間の講習に真剣に取り組み、無事修了することができました。当該講習を修了した研修生たちは、実務経験を二年間積んだ後に林業架線作業主任者免許を取得できるようになります。

「縦横断測量」「林内路網」では、木材を運ぶための道づくりに関する様々なことを学びました。道づくりの考え方、縦横断測量の手法と図化、線形計画について学んだのち、実際に現地でやぶを刈払いながら図面を頼りに踏査し、計画線形通りに森林作業道を作設できるか検討しました。線形計画にあたっては、路網設計支援ソフト（ＦＲＤ）を活用し、地形に合わせた無理のない線形を提案・決定するにあたり、最新技術がどのように活用できるかを、実習を通して学びました。

○研修生の感想　大原武男さん

研修生、職員、講師、関係者の皆さんのおかげで毎日楽しく学ぶ事が出来ています。特に現場実習は、森林の空気が美味しく気分が上がるので好きです。作業につい集中し過ぎて水分補給をうっかり忘れてしまう時も…そんな自分に注意してアラームをセットして、一定時間経ったら水分補給をするようになりました。寒い日はお湯をボトルに入れて山へ持って行き、お昼はカップラーメン！身体も心も温まり最高に幸せな瞬間です。

さて、十一月は林業架線作業、林内路網作設の講義がありました。山（森林）を傷めない為にとても大切な知識だと感じました。例えば、いわき市での路網（森林作業道）の現地実習は目測縦断勾配（斜度）三〇度以上に見えましたが、実際はそれ以下で、やはり経験が足りないと実感しました。雨の日には重機の重みで泥濘（ぬかる）み地面を傷めてしまうこと、ゴム製の履帯（クローラー）は滑る事も肌で感じ、学べました。適切に安全な所に継続使用出来る路網をつくるには図面だけに頼るのでは無く現場踏査がとても重要と理解出来ました。

就業前に見て、触れて体験出来るので現場実習は本当に素晴らしいです。私達を実習現場まで長距離や悪路の林道を運転送迎して下さる職員さんには心から感謝しかありません。残りわずかですが、習熟度をあげて美しい福島県の森林を守れる杣人を目指して、講義や実習に励んでいきたいと思います。

架線集材機を無線操作する研修生（最右）

FRDを活用した線形計画を学ぶ

計画線形を踏査・測量する研修生
刈払い必須！

シリーズ「新たな森林づくり」⑥　水源区域などの荒廃した森林整備　森林整備事業（森林機能向上事業）

福島県森林整備課・いわき農林事務所

一、森林整備事業の概要

近年頻発している災害のリスクを低減させ、森林の持つ公益的機能の向上を図るためには、適期に間伐を行う必要があります。

森林の混み具合に応じて、樹木の一部を伐採する「間伐」を行い、林床に光を行きわたらせることにより、下層植生が回復し、森林の持つ水源涵養機能などが増進されます。

福島県では、水源区域などの公益的機能が高い森林のうち、手入れが行われず荒廃が懸念される人工林を対象に、集約的な間伐を推進するため、「森林整備事業（森林機能向上事業）」により支援を行っております。

補助対象の主な内容

①公益的機能が高い森林のうち、手入れが行われず荒廃の恐れがある人工林における間伐（標準経費の100％以内を補助）

②間伐施行地へ到達するための既設作業路の改良（定額（500円／ｍ）を補助）

二、いわき農林事務所管内での取組状況

いわき農林事務所管内での近年の実績は次のとおりです。

管内の事業体においては、森林所有者からの要望に基づき計画を作成するほか、その要望箇所の周辺森林において手入れ不足が懸念される森林も計画に取り込む等、一体的に効率よく間伐を実施できるよう事業に取り組んでいます。

○いわき農林事務所管内での実績
福島県森林・林業統計書より

	間伐面積(ha)	作業路改良(m)
H28	218	
H29	383	
H30	285	
R元	185	1,000
R２	245	500
R３	247	
６ヵ年計	1,563	1,500

林況や既設の路網の整備状況を勘案しながら、計画を作成し、事業着手前に、農林事務所、補助事業者及び森林所有者の三者により森林管理協定書を締結します。この協定に基づき、間伐を実施し、その後十五年間にわたって公益的機能が持続的に発揮されるよう適切な管理に努めることとなっています。

本事業において、間伐及び間伐材の土場への搬出までを補助対象としておりますが、事業体においては、森林所有者との調整の上、間伐材の運搬・販売を行い、その収益の一部を所有者に還元しています。これにより、公益的機能の維持・増進が図られるだけでなく、森林所有者の森林整備に対する意欲の向上につながる取組となっています。

三、今後の取組と課題

間伐を行いたいが、自分ではなかなかできない、また、人に頼んでまでは……という森林所有者にとっては、ほとんど負担なく間伐ができることから、管内においては、今後も継続的な実施が見込まれています。

しかしながら、管内のスギ人工林の七割が五十年生以上であることから、近年、保育間伐よりも利用間伐の実施箇所が増加傾向にあります。

高齢級の人工林の適切な管理のため、担い手の確保や高性能林業機械の導入といった実施体制の充実にも取り組んでいく必要があると考えております。

写真１　間伐実施前

写真２　間伐実施後

写真３　間伐後数年が経過した林分

林経協だより

林業関係団体との連携

福島県林業経営者協会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から二年を超えて行われていた行動制限が緩和され、福島県林業経営者協会もようやく林業関係団体と連携する活動を行うことができました。

東北六県新潟県林業経営者協会 第六三回山形大会

（一社）日本林業経営者協会の行う東北六県新潟県林業経営者協会第六三回山形大会が、十月十八・十九日の両日にわたり、山形県新庄市で開催されました。

福島県林業経営者協会からは中野会長と佐川副会長、事務局を務める（公社）福島県森林・林業・緑化協会の佐藤参事が出席しました。

初日は、まず新庄中核工業団地内にある協和木材㈱新庄工場を視察し、効率的に稼働するよう設計された製材ラインについて当協会の副会長でもある佐川代表取締役から説明を受けました。

次いで、もがみバイオマス発電㈱を視察、その後は懇談会会場に移動して（一社）日本林業経営者協会池田専務理事から最近の林政の動きと日本林業経営者協会の活動状況についてお話をうかがいました。

二日目は、山形県農林大学校と令和六年の開校に向けて校舎の建設が進む東北農林専門職大学校について説明を受けました。

二度の延期を経て開催された山形大会は参加者が三〇人を超え、会員同士がしばらくぶりに顔を合わせ、今後の林業経営の在り方について話を弾ませました。

協和木材㈱新庄工場視察

協和木材㈱新庄工場
佐川代表取締役の説明

もがみバイオマス発電所㈱

第四五回全国育樹祭

第四五回全国育樹祭が大分県で開催され、十一月十三日の式典行事に中野会長が参加しました。

（第四五回全国育樹祭については、「林業福島」今月号に掲載されている（公社）福島県森林・林業・緑化協会の記事をご覧ください。）

講話 最近の林政の動きとJ―クレジット制度

福島県林業経営者協会は十一月七日に総会を開催し、来賓としてご出席いただいた（一社）日本林業経営者協会専務理事　池田直弥氏にご講話をいただきました。

○最近の木材価格の動向

ウッドショックと言われた材価の高騰は、元に戻ってきている状況。国産材の安定供給体制の構築に向け、再造林を見据えた価格形成過程の透明化や山元へのコストの還元、また林業労働者の再構築について考えるときであり、持続可能性の担保されない森林から生産された木材は使わないという社会的コンセンサスを作り上げることが必要。

○経営モデル実証事業

全国で行われている「新しい林業」経営モデル実証事業に、福島県では㈱サンライフが福島県林業研究センターと古殿町の支援を受けて取り組んでいる。

○技能検定制度の構築

労働者の技能を国が証明する技能検定制度を林業に導入することにより、林業労働者の地位向上やキャリアアップ、人材教育に活かすことを目的に、技能検定職種への指定を目指している。

○J―クレジット制度における森林管理プロジェクト

森林管理等による温室効果ガス排出量の削減・吸収量をクレジットとして認証する制度。国や事務局はJ―クレジット制度を普及させるため、プロジェクト計画書作成支援や審査費用に関する支援を行っている。

〔講話〕池田専務理事

森林管理署メモ

棚倉森林管理署のなりたち

棚倉森林管理署

棚倉森林管理署は、福島県南部の東白川郡（棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村）に所在する約二一、〇〇〇ヘクタールの国有林を管轄しています。

国有林の約六三パーセントがスギ・ヒノキの人工林で、生産される木材は地域の名を取り「東白材」や「奥久慈材」として知られています。

東白川郡の林業の歴史は古く、藩政期から行われていた記録があります。

明治二（一八六九）年の版籍奉還により「国有林」が形成され、明治三二年に公布された国有土地森林原野下戻法による整理をもって、概ね現在における東白川郡の民有林・国有林の森林面積になりました。

明治二三年に栃木大林区署棚倉派出所が設置されます。当時は民家を借り上げて事務所とし、造林面積十八町歩（一町歩＝約一ヘクタール）、五四、〇〇〇本を植林したとの記録があります。

大正八（一九一九）年に庁舎が新築移転（写真１）され、大正十三年に東京営林局棚倉営林署となり、大正十四年には造林面積五五・七五ヘクタールであったようです。

昭和二二（一九四七）年の林政統一により、前橋営林局棚倉営林署となり、昭和二六年には庁舎を棚倉城跡乙四四―三番地に新築移転します。（写真２）

戦後復興の伐採量の増加に伴い植林面積も三四〇ヘクタールと増加します。

昭和三〇年から平成元年にかけて、毎年一〇、〇〇〇立方メートルから三五、〇〇〇立方メートルの伐採量を背景に、一〇〇ヘクタール以上（多いときで約五〇〇ヘクタール）の植林を実施しています。

平成七年に庁舎を城跡から現在の舘ヶ丘に移転します。（写真３）そして、平成十一年に棚倉営林署から現在の関東森林管理局棚倉森林管理署に改称しています。

棚倉森林管理署の取組

令和になり、当署では、戦後植林した人工林がここ十年の間に利用期を迎え、毎年五〇、〇〇〇立方メートル～六〇、〇〇〇立方メートルの木材を生産しています。

これほど多くの木材生産を可能としたのは、時代時代で植林されてきたからであり、この地域に木材市場や製材工場等の木材産業を育んだと考えています。

現在、当署で行っている木材生産は全てが請負事業であり、地域の雇用創出に貢献すると共に木材の安定供給を行うことによって木材産業を支えています。

伐採後の森林は、これまでの歩みを引き継ぎ、着実に植林し、森林を次の世代へ繋いでいくことに取り組んでまいります。

写真１：大正八年の棚倉庁舎

写真２：昭和二六年の棚倉庁舎

写真３：現在の棚倉庁舎

公社だより

針広混交林化の実証試験を始めました！

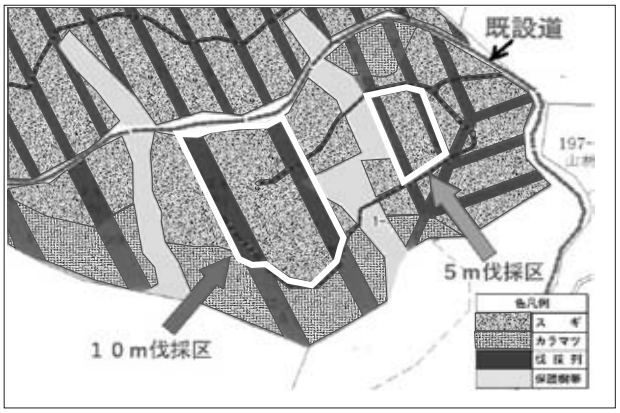
ふくしま緑の森づくり公社

造林未済地の発生は、林地の保護、災害発生の防止の観点から重要な問題です。公社造林地においても、今後、契約期間満了を迎える契約地が徐々に現れてきますが、昨年度、ウッドショックなどの影響によりある程度高騰した材価も今年度は元に戻るなど、現在の材価では主伐後の再造林経費を賄えない場合が多いと考えられるため、造林未済地の発生が懸念されます。

造林未済地を生じさせない方策の一つとして、造林木を帯状等に伐採して高木性樹種の侵入を誘導して、針広混交林化を図り、森林の公益的機能が途切れないようにする手法が考えられます。

針広混交林化の手法については、いくつか研究事例はありますが、福島県内の様々な場所で適用可能なほど具体的・体系的にまとめられたものはなく、針広混交林化の可否の判断はどのようにすれば良いのか、また、地表掻き起こしなどの労力や経費をできるだけ掛けずに針広混交林化を図るにはどのようにすれば良いかなど、実際に針広混交林化に取り組むには、まだまだ知見が不足していると言わざるを得ない状況です。

そこで、公社の契約地において、福島県林業研究センターの協力をいただきながら、今年度から針広混交林化の実証試験に取り組むこととし、今年度は田村市内の契約地において試験区を設けることとしました。この契約地は、北向き斜面ではありますが、スギ林が広葉樹の保護樹帯やカラマツ林に三方を囲まれる配置となっている箇所があり、そのような箇所に一〇メートル幅と五メートル幅の二種類の伐採幅で列状間伐を実施して、残存列を含めた試験区を設定しました。



試験地の概要

試験区を設置したスギ林

今後は、伐採列はもちろん、五～十年後にさらに列状間伐を行う残存列への高木性樹種の稚樹の侵入・定着の経過を観察・調査し、この試験区で針広混交林化を図ることができるか実証するとともに、伐採幅をはじめとした様々な因子が、高木性樹種の侵入・定着・生育に与える影響なども調査したい考えです。また、実証試験に供試可能な契約地が他にあれば、さらに同様の試験区を設定し、針広混交林化に関するデータの蓄積に取り組んでいく予定です。

針広混交林化に関する有益な情報等がありましたら、当公社までお寄せくだされば幸いです。

【トピック】間伐材のクリスマスツリーを展示しました

当公社では、十二月十二日から二六日まで、福島県自治会館一階エントランスホールにおいて、毎年恒例となっている間伐材を有効利用したクリスマスツリーを展示しました。今年はヒノキを使い、皆さんに楽しんでいただきました。

木の文化を育む㊻

空き家を活かした木工生活

（きこり工作室）

郡山女子大学　生活科学科　建築デザイン専攻　准教授　阿　部　恵利子

○はじめに

福島県都路町は田村市の東部に位置する町です。阿武隈山脈の麓にある自然豊かな地域で、二〇一一年の東日本大震災及び原発事故で一時は避難指示区域となりましたが、約九割の住民は帰還しており、現在は若者の移住や大学生の受け入れが積極的に行われ、復興への歩みを進めています。

○森の暮らしを楽しむ

二〇二一年に福島県須賀川市から田村市に移住し、生木を使ったものづくり「グリーンウッドワーク」を楽しみながら生活をスタートさせた安田康さんは、かつて都路町の別荘地として分譲されていたログハウスの空き家を自宅兼木工制作の場「きこり工作室」（都路町）として活用しています。自然豊かな森に佇むログハウスは、「グリーンウッドワーク」を楽しめる絶好の環境で、四季折々の自然を満喫しながら生活することができます。薪ストーブで暖をとる安田さんの傍らには、グリーンウッドワークで制作した、温もりある作風の椅子が並んでいました。

○「グリーンウッドワーク」

グリーンウッドワークは、森から伐採したばかりの乾燥していない「生木」を材料に小物や家具などを制作します。制作には電動工具や大型の機械などは使わずに、伝統的な手工具を用います。生木そのものが持つ特徴を活かしながら、手作業で木を割り、削るグリーンウッドワークは、制作のための道具も自ら作ります。時にはナイフなどの刃物も制作物に合わせてつくり上げ、ゆっくりと時間をかけてモノづくりに取組みます。

手で生木を削る感触は、思いのほか軽く柔らかで、ずっと削り続けたくなるような感覚です。「曲がった材料も個性があって面白い。丸太から削りはじめ、ありのままの木をよく見て、制作するモノを想像し、カタチにしたものは、唯一無二で愛着が湧きます」と安田さん。

○制作工程を楽しむ

安田さんはグリーンウッドワークの制作工程も魅力の一つだと言います。伸縮する生木の特性を十分に活かし、時間をかけて作り上げることで、接着剤や釘を使わずとも耐久性のある丈夫な家具に生まれ変わります。「制作工程を楽しみながら時間をかけて作るモノづくりは、完成した時の達成感が得られます」と安田さん。さらに、モノをつくる楽しみだけでなく、ゆったりと時間をかけることで生まれる人との会話もグリーンウッドワークの楽しみであり魅力です。自然豊かな環境のもと、安田さんはモノをつくる楽しみと生活の楽しみの両方を実感しています。

○滞在型木工教室

安田さんは、来年から自宅兼木工制作の場であるログハウスを活用し、民泊しながらグリーンウッドワークを楽しめるよう、滞在型木工教室を多くの人々へ提供したいと考えています。安田さんの友人も仕事をしながらログハウスに滞在し、グリーンウッドワークを時折楽しんでいるそうです。「田村市と連携し、空き家を使った取り組みのモデルの一つとして、グリーンウッドワークやログハウスでの生活を体験してもらい、農業や林業に興味がある人々を繋いでいきたい」と安田さん。

○まとめ

生木からモノづくりをするグリーンウッドワークの楽しさや自然に寄り添い生活する森の暮らしの豊かさを一人でも多くの人が体験することで、都路町のさらなる復興につながることを願います。

グリーンウッドワーク「きこり工作室」の様子　左：安田さん　右：制作中の椅子

木材市況

九月の原木市場への入荷量は、前月比一八パーセント増（前年比三四パーセント増）の二六、三七九立方メートルとなっている。

販売量は、前月比二八パーセント増（前年比三四パーセント増）の二六、三四四立方メートルとなっている。

十月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2022年10月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	9（9～9）	△1	（0～0）		11（11～11）	0	10（9～11）	0
		10～14		並	スギ	16（16～17）	△1	（0～0）		14（14～14）	0	15（14～17）	△1
	中	14～22	3.00	並	スギ	17（16～18）	0	17（17～17）	0	15（15～15）	0	16（15～18）	0
				並	ヒノキ	18（18～18）	△1	（0～0）		19（18～20）	0	19（18～20）	0
			6.00	並	スギ	20（18～22）	0	12（12～12）	0	21（20～21）	△1	19（12～22）	0
				並	ヒノキ	30（30～30）	0	（0～0）		29（29～29）	0	29（29～30）	0
		20～28	3.65	並	スギ	15（14～15）	0	14（12～15）	0	14（13～15）	1	14（12～15）	0
			4.00	並	スギ	14（13～15）	0	12（11～12）	△1	14（13～15）	1	13（11～15）	△1
				並	アカマツ	11（10～12）	0	（0～0）		10（10～10）	0	10（10～12）	△1
			1.80	並	アカマツ	10（10～10）	△1	（0～0）		9（9～9）	0	10（9～10）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		38（38～38）	0	38（38～38）	0
				並	米マツ	（0～0）		（0～0）		40（40～40）	0	40（40～40）	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		36（36～36）	0	36（36～36）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		36（36～36）	0	36（36～36）	0
				並	カラマツ	（0～0）		（0～0）		36（36～36）	0	36（36～36）	0
パルプ用材				並	マツ	7（7～7）	0	（0～0）		（0～0）		7（7～7）	0
				並	広葉樹	10（10～10）	0	（0～0）		（0～0）		10（10～10）	0

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材		12以下	4.00	並	カラマツ	（0～0）		7（6～8）	0
		13～14		並	カラマツ	（0～0）		8（7～8）	0
		16以上		並	カラマツ	（0～0）		9（8～11）	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（　）内は各地域の価格幅、（　）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

海岸防災林の今

福島県相双農林事務所　民安義仁

相双農林事務所では、六〇二ヘクタールの海岸防災林を全八地区（相馬、鹿島、原町、小高、浪江、双葉、富岡、楢葉）で着手しており、工事進捗率は事業費ベースで九八パーセントまで進み、令和二年度に楢葉、令和三年度に原町、令和四年六月に鹿島、十二月までに相馬の四地区で整備を終えました。

生育にバラツキはあるものの、鹿島地区北海老のクロマツは、樹高が三メートルを超えるものもあり、植栽木の生長は進んでいます。令和五年度には、管内初となる本数調整伐（間伐）を計画しているところです。

かつては、膨大な予算を執行することがミッションでしたが、今は、六〇〇ヘクタールを超える広大な海岸防災林の盛土法面の草刈や豪雨により被災した盛土の復旧など、海岸防災林の適正な維持管理のための予算確保が大きな課題となっています。

鹿島地区北海老のクロマツの生育状況（Ｒ４年11月撮影）

原町地区の整備状況（Ｒ４年９月雫上空より撮影）

はなしのひろば

空（から）

毎年、年が改まると、新年早々自分の内（うち）をリセットして空（から）にしてみる。自分の内の容量がどれほどのものか計り知れないが、一日もかからずにリセットできるのだから、それほど大きな容量ではない。更に、内に引き出しも持たないので、至極簡単だ。今年の目標も、一年先は想像がつかないので「心身ともに健やかな毎日の暮らし」を願っている。

令和五年、今年は兎年。兎は、月の化身や神聖なシンボルとして讃えられ、吾妻小富士（福島市）の山肌には、雪解けの頃になると「雪うさぎ」がお目見えする。この雪うさぎは、日照りの時にトンビにさらわれた「うさぎ」が山の神になったという言い伝えがある。また、明治時代にはうさぎブームで、盛んに売買や飼育がおこなわれ、明治六年東京府は、うさぎ一羽につき税金一円を科したという。が、現在（いま）でも犬、猫に次ぐペット三位の存在になっている。また、兎の特徴的な長い耳は、秀でた聴力をもつという。

ところで、私が社会人になる時に、亡き父が「自分で話したことを自分の耳で聴けるようになりなさい」と言ってきた。兎の聴力とは別な意味合いだが、神経を集中して聴くことに変わりはない。おそらく、口先だけの私への〝警告〟ともつかない「はなむけの言葉」だったように思える。

あれから何十年も経った年の初めに、この父の言葉が、空になった私の内へ、新鮮に素直に、今、刻まれていく。今さらながら、自分自身への責任ある重い言葉である。

（都）

表紙の写真

「年輪を切る」

第19回ふくしま森林・林業写真コンクール
最優秀賞（福島県知事賞）
受賞者　高橋勝美さん（福島市）
撮影場所：福島市
コメント：福島市内の自然林を散策中、伐採作業の現場に出合い、伐倒された樹木を作業従事者が真剣な面持ちでチェーンソーを入れた時、木屑と共に樹木の年輪が目に入り、夢中でカメラのシャッターを切りました。
カメラレンズを通してこれからも様々な自然界を撮りたいと思っております。

編集　福島県
発行　福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行人　飯沼　隆
（福島市中町五番一八号県林業会館内）
印刷　陽光社印刷株式会社
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

「ともに　つくろう」
第47回福島県児童・生徒木工工作コンクールの表彰式を開催

入賞者の皆さま

福島県木材青壮年協会では、子ども達の想像力を伸ばし、木をもっと身近なものにして欲しいとの想いから、長年に渡って児童・生徒木工工作コンクールを開催しています。

今年で47回目となる当コンクールは、一昨年より続くコロナ禍による制限下で生活様式が変わる中であっても、木と共に、また家族や学校の友達と共に楽しむ事を大切に「ともに　つくろう」をテーマに開催し、県内の小学生から433点の応募がありました。表彰式は、令和４年11月26日にいわき市で行われ、上位15作品の入賞者ら約50人が出席しました。
（一般財団法人福島県林業会館「フォレスト協賛金」を活用しています。）

入賞者名簿

賞		作品名	入賞者氏名	学校名・学年
最優秀賞	福島県知事賞　第１部	海でおよぐいか	安西　来真	福島市立野田小学校２年
	福島県知事賞　第２部	とらの親子	福島　悠太	いわき市立小名浜第三小学校６年
優秀賞	福島県教育委員会教育長賞　第１部	海でひろった木で	菅野　陽翔	いわき市立高野小学校４年
	福島県教育委員会教育長賞　第２部	秋の散歩道	和田　千広	いわき市立小名浜第二小学校５年
	関東森林管理局長賞	あじのもけい	髙橋　佐知	いわき市立赤井小学校２年
	いわき市長賞	戦艦	木村　　惺	いわき市立磐崎小学校４年
	福島民報社長賞	プテラノドン	福島　英慈	いわき市立小名浜第三小学校２年
	福島県木材協同組合連合会長賞	夏の思い出	下坂　海翔	いわき市立好間第一小学校６年
	福島県林業会館理事長賞	木の小田原城	小田　琉依	いわき市立小名浜第三小学校６年
	NHK福島放送局長賞	ゆらゆららんど	小林　一心	いわき市立小名浜第二小学校３年
	ラジオ福島社長賞	木工の富がく三十六景	永田　康大	いわき市立中央台東小学校５年
	福島テレビ社長賞	クールなクワガタ	菅井　景悠	いわき市立中央台東小学校３年
	アクアマリンふくしま賞	大好きタカアシガニ	舟山凛太朗	いわき市立泉小学校３年
	福島県木材青壮年協会長賞　第１部	希望のたまご	井上　生暉	いわき市立泉小学校４年
	福島県木材青壮年協会長賞　第２部	自然もり森カレンダー	菱沼　　颯	福島市立野田小学校５年

最優秀作品　第１部
「海でおよぐいか」

最優秀作品　第２部
「とらの親子」

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（ 仙台支店 ） 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
（ 本社 ・ 工場 ） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（ 支　　店 ） 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島　一月号　通巻第七〇一号

令和五年一月一日発行
（毎月一回一日発行）

監修　福島県農林水産部
編集発行人　飯沼　隆宏

発行所　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号　県林業会館内

定価　一一〇円（税込）
年間購読料　一、九八〇円（税・送料込）

いざという時、あなたの備えは万全ですか？
福島ミドリ安全の防災対策

企業防災のご提案
保管スペースのご提案
災害時のゴミ対策

その日を恐れるのではなく、その日に備える

福島ミドリ安全株式会社
代表取締役社長　白　石　昇　央
【本社】〒963−8550 福島県郡山市桑野4−1−22
TEL.024−923−5178・FAX.024−923−5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional
BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional
GZ3950EZ
排気量 39.1cc
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR
刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100
破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1